

# 多様な販路に対応した甲賀地域の園芸振興

## 甲賀農業農村振興事務所農産普及課

### 【普及活動のねらい・対象】

甲賀管内の農業は、稲・麦・大豆、そして茶が主体で、園芸作物の生産が非常に少ない状況です。しかし、新鮮で安全、安心な農産物に対する関心は高く、生産者の顔が見える地場農産物、特に野菜、花、果樹に対する消費者のニーズは高く、その生産拡大が強く望まれています。そこで、園芸作物栽培が『安心して取り組める魅力あるもの』として取り組まれるよう直売所、市場、相対取引、学校給食を販売先の4本柱として、それぞれに応じた方策を検討し、JA、農業センター等関係機関が一体となって園芸振興を推進しました。

### 【普及活動の成果】

#### 直売所

過去の販売実績を分析し、地域に合った有望な作物の情報提供を行うとともに、新たに園芸に取り組む担い手を育成・確保する目的で「花野果」園芸講座を開催しました。



花野果「園芸講座」

#### 市場出荷

かぼちゃ、たまねぎ、キャベツを重点野菜に位置づけ、販売先を決めた契約型の生産を推進しました。また、県内でも大きな産地となりつつあるイチジクや小菊は、販売先から安定出荷が求められています。そこで、これらの作物を水田活用の新たな品目として位置づけ、栽培研修会等を通して、地の利に合った作付け推進、生産拡大を図るとともに、計画生産・計画出荷につなげました。



キャベツの定植作業

#### 相対取引（ホテル、レストランなど）

甲賀の伝統野菜である「下田なす、水口かんぴょう、杉谷なすび、杉谷とうがらし、鮎河菜」は、県内のホテル、レストランなど取引先の希望数量や時期に対応するため、生産面積の拡大や安定生産技術の確立を図りました。

#### 学校給食

地元の安心な野菜を学校給食の食材として提供する取組につきましては、食育畑を効率的に運営することを目的に申し合わせ事項を定めるとともに、引き続き、給食センターと連携し、作期の拡大を行うとともに、新たな品目の作付けを推進しました。

直売所	JA直売所である「花野果市」の売上が、20%以上増加 園芸講座により新たに十数名が作付け計画を作成し、栽培を開始
市場出荷	栽培面積の拡大 重点野菜 7.6ha→16.3ha いちじく 1.4ha→2.0ha 短茎小菊 0.4ha→0.6ha
相対取引	栽培面積の拡大 2.0ha → 3.5ha
学校給食	地場産使用率の向上 13.9% → 15.2%（重量ベース）

